

歯科衛生士養成機関 各位

令和6年6月

一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会  
理事長 眞木 吉 備



## 歯科衛生士教育に関する現状調査の結果報告

拝 啓

貴校におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

(一社)全国歯科衛生士教育協議会では、歯科衛生士教育の現状を把握し、将来の歯科衛生士教育について検討するために、全国歯科衛生士教育協議会会員校の協力を得て、アンケート調査を実施させていただきました。今年度も昨年度と同様に、全国歯科衛生士教育協議会理事会の要請に基づいて、①養成校所在の都道府県以外へ就職した者の人数、②養成校所在の都道府県以外から入学した者の人数、③外国人留学生の日本での就職状況、④既卒入学者(高等学校新卒ではない者)の人数、等について調査・分析を行いました。以下はその調査結果をまとめたものです。

各養成校の教育に対する現状と入学者の動向や就職状況を把握する上で欠くことのできない資料となるのではないかと考え、調査結果をご協力いただきました各校に送らせていただきます。

本調査へのご理解とご協力に対して、歯科衛生士養成機関各位に御礼申し上げます。

敬 具

# 歯科衛生士教育に関する現状調査の結果報告

## 1. 調査対象

本調査の対象は、令和6年4月1日現在、全国歯科衛生士教育協議会に加盟していた歯科衛生士養成校183校とした。

## 2. 調査実施期間

令和6年4月1日から4月19日にかけて郵送によるアンケート調査を行った。

## 3. 調査内容

本調査は各養成校に記名方式の調査用紙を封書で郵送し、下記の項目について回答を得た。

- 1) 令和5年度 卒業生数、就職者数、求人件数、求人人数、養成校所在の都道府県以外に就職した者の人数、留学生の卒業人数と日本に就職した者の人数
- 2) 令和6年度 入学定員、志願者数、入学者数、既卒入学者(高等学校新卒ではない者)の人数、養成校所在の都道府県以外から入学した者の人数
- 3) 令和6年度 在学外国人留学生の国籍と人数
- 4) 令和6年度 在学中の男子学生数および男子学生受け入れの有無
- 5) 専任教員の人数および専任教員認定歯科衛生士の人数

## 4. 結果

調査対象とした183校の養成校のうち、183校より回答を得、回収率は100%であった。

養成校の種別では専門学校153校、短期大学16校、大学14校となっている。

入学者等についての集計は今年度学生募集を行わなかった1校を除く182校とし、令和5年度の求人人数が未記入の場合は求人件数と同数であるとして集計処理を行った。また、昼間部と夜間部等の2部制の養成校については各部を合計して集計した。

### ① 入学定員と入学者の推移

全国の入学定員は10,069名と今年度初めて1万人を超え、過去最高となった。入学者数は8,007名と昨年と比べ310名減少した(表1, 図1)。

全国の入学定員に対する入学者数の割合(入学定員充足率)は、令和3年度に91.2%まで回復したが、その後減少傾向へと転じ、令和6年度には79.5%と本調査開始以降最も低い割合となっている(表2, 図2)。

また、入学定員充足率の10年間の推移を地区別に見ると、地区によって若干の違いはあるが、平成30年度を底として令和3年度までは徐々に回復傾向にあった。今年度は九州/沖縄地区を除き、充足率はさらに減少している(図2)。

入学者数が入学定員に満たない養成校は、平成31年度に63.0%と高い割合を示し、令和3年度では48.3%まで減少したが、その後増加に転じ、令和6年度では73.1%と本調査開始以降最も高い割合となっている(表2)。

入学者のうち高等学校新卒者(令和6年3月卒業)以外の既卒入学者(高等学校新卒ではない者)の割合は全体では17.0%で昨年度の14.5%よりも増加した。学校種別に見ると、専門学校が最も多く18.6%であった(表4)。

## ② 入学定員と入学志願者の推移

全国の入学定員に対する志願者倍率は平成26年度から減少傾向となり、近年は1.1倍程度の横ばいとなっており、令和3年度で1.22倍とやや増加したが、令和4年度からは減少へと転じ、令和6年度では0.95倍と1倍を下回り、本調査開始以降最も低くなっている。志願者倍率を地区別に昨年度と比較すると、すべての地区で減少しているが、東海地区の減少が大きく、中国/四国、九州/沖縄地区の減少は小さい(図3)。学校種別に昨年度との比較で見ると、専門学校は令和5年度0.96倍から令和6年度0.88倍、短期大学は令和5年度1.26倍から令和6年度1.1倍、大学は令和5年度1.74倍から1.5倍と大学でも減少となっている(表3)。また、志願者数が定員に満たない養成校は60.4%と平成17年の調査開始以降で最も増加した(表2)。

## ③ 就職者数・求人件数・求人倍率の状況

令和5年度は卒業生数7,513名、就職者数6,738名で就職率は89.7%であった。求人件数は86,597件で求人人数は147,132名、就職者に対する求人人数倍率は21.8倍で、令和4年度よりも若干の減少となった(表1, 図4)。求人倍率を地区別に比較すると、関東/甲信越および東海地区が高く、北海道および九州/沖縄地区が低かった(表5)。就職率を地区別に見ると、最も就職率が高いのは東海地区で(95.9%)、最も低いのは関東/甲信越地区で86.2%であった(図5)。

就職者のうち養成校所在の都道府県外に就職した者の割合は23.5%で昨年度(22.4%)とほぼ同様であった。また、地区ごとに見ると、東北地区では30.9%、関東/甲信越地区では33.1%と多く、北海道地区では5.6%と少なかった。

卒業時点で未就業である者の理由には、国家試験不合格が多かった。また、国家試験終了後に

就職活動をおこなっており、養成校で就職状況を把握できていない者が多かった。進学した者も多く、専門学校からは大学、短期大学からは専攻科、大学からは大学院へと進学していた。結婚・出産・育児のため就職しない、他の職種に就職といった理由もみられ、昨年度の調査とほぼ同様であった。

#### ④ 養成校所在の都道府県以外(以下県外)へ就職した者の人数と都道府県以外から入学した者の人数

地区別に養成校所在の県外へ就職した者の人数と県外から入学した者の人数を比較すると、県外からの入学者数より県外への就職者が多かったのは北海道・東北・中国/四国地区であった。一方、県外からの入学者数の方が県外への就職者数より多かったのは関東/甲信越・近畿/北陸地区であった(図 6)。

#### ⑤ 在学外国人留学生の国籍と人数

在学外国人留学生は平成 30 年度(24 名)頃より増加し、令和 3 年度では 45 名であったが令和 4 年度と令和 5 年度ではやや減少、令和 6 年度で 47 名と再び増加した。また、中国からの留学生が大半を占めた(図 7,8)。

#### ⑥ 在学中の男子学生数

在学中の男子学生数は平成 30 年度以降増加傾向を示し、令和 6 年度では 116 名となった(図 9)。男子学生の入学を受け入れている養成校は 147 校で、全体の 80.3%となり年々増加している。専門学校では 79.9%、短期大学 68.8%、大学 92.9%となっている(表 9)。

#### ⑦ 在学学生数、専任教員および専任教員認定歯科衛生士の人数

歯科衛生士養成校の在学学生数は 1 学年 8,167 名(定員数 10,069 名)、2 学年 7,706 名(定員数 9,885 名)、3 学年 7,855 名(定員数 9,767 名)、4 学年 409 名(定員数 463 名)の合計 24,824 名(定員数 30,184 名)で昨年度と比較して 687 名減少した。一方、専任教員数は合計 1,323 名と昨年度とほぼ同数であり、その内訳は、歯科衛生士 1,044 名(3 名減)、歯科医師 177 名(4 名増)、その他 102 名(5 名減)であった。専任歯科衛生士教員 1 名に対する在学学生数の平均は 23.1 名で昨年より若干減少した。

歯科衛生士専任教員のうち本協議会が定めた専任教員認定歯科衛生士が教員の半数以上を占める養成校は 63 校(34.4%)、一方で 1 名もない養成校は 38 校(20.8%)であった。

歯科衛生士養成校入学定員・志願者数等の動向経年調査 2024

表1 卒業，就職，求人状況および入学定員，志願者，入学者数について

令和5年度				令和6年度		
卒業 者数	就 職 者 数	求 人 件 数	求 人 人 数	入 学 定 員	志 願 者 数	入 学 者 数
7,513	6,738	86,597	147,132	10,069	9,560	8,007
351	367	▼2,143	▼1,157	258	▼637	▼310
183校/183校中(回答率 100%)						
(前年比)						
就職者に対する求人件数倍率				12.9		
就職者に対する求人人数倍率				21.8		
志願者倍率=志願者数/入学定員				0.95		
定員充足率=入学者数/入学定員×100				79.5%		
志願者数が定員に満たない学校				60.4%		
入学者が定員に満たない学校				73.1%		

表2 入学定員充足率と志願者倍率等の年次推移

	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
入学定員充足率	89.8%	89.0%	83.6%	85.9%	86.1%	91.2%	88.9%	84.8%	79.5%
入学者が定員に満たない 養成校の割合(%)	48.7%	55.9%	59.9%	63.0%	61.3%	48.3%	54.3%	68.0%	73.1%
志願者倍率	1.21	1.21	1.09	1.09	1.10	1.22	1.13	1.04	0.95
志願者が定員に満たない 養成校の割合(%)	36.1%	37.9%	44.4%	50.0%	45.8%	35.5%	40.0%	52.2%	60.4%

表3 学校種別の志願者倍率と入学定員充足率

令和6年度	志願倍率(倍)	入学定員充足率
全 体(182校)	0.95	79.5%
専門学校(152校)	0.88	78.9%
短期大学(16校)	1.1	83.1%
大 学(14校)	1.5	82.1%

※183校のうち令和6年度学生募集を中止した1校を除く

表4 学校種別の既卒入学者(高等学校新卒ではない者)の人数と割合

学校種別	入学者数	既卒入学者数	割合%(前年度)
全 体	8,007	1,365	17.0%(14.5%)
専門学校	6,583	1,225	18.6%(16.9%)
短期大学	939	116	12.4%(3.6%)
大 学	485	24	4.9%(3.2%)

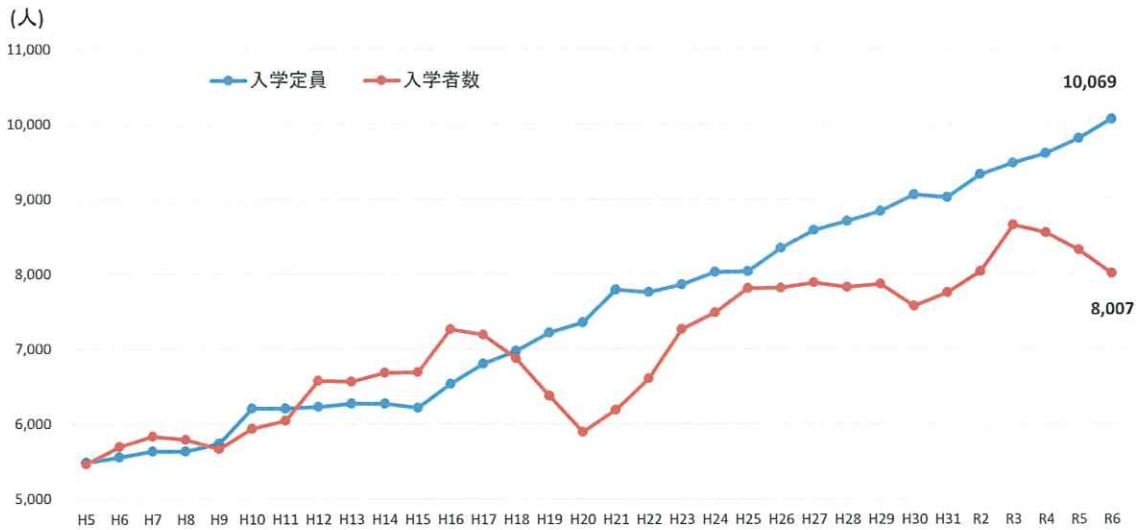


図1 歯科衛生士養成所の入学定員と入学者数の推移(平成5年度～令和6年度)

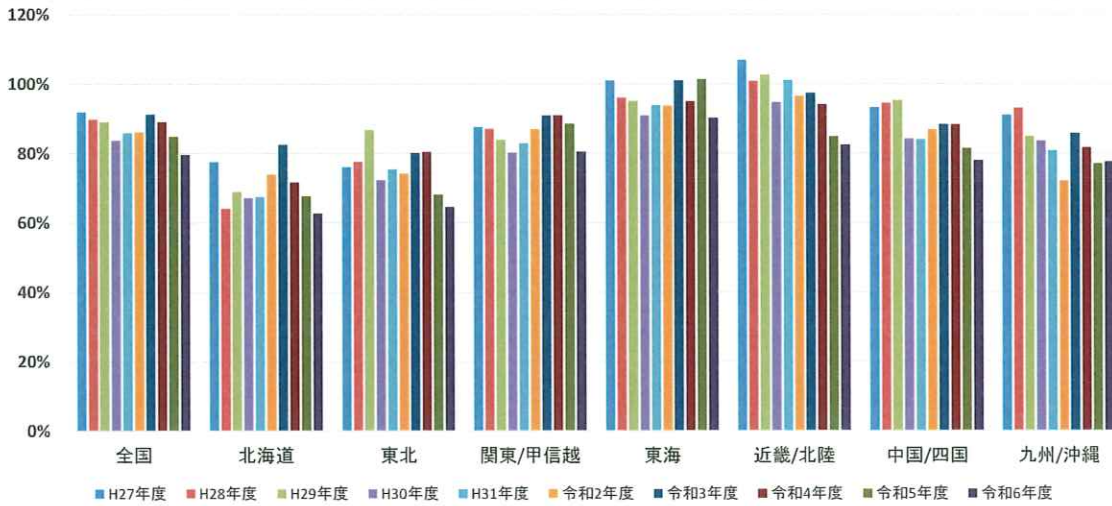


図2 地区別入学定員充足率の年次推移(平成27年度～令和6年度)

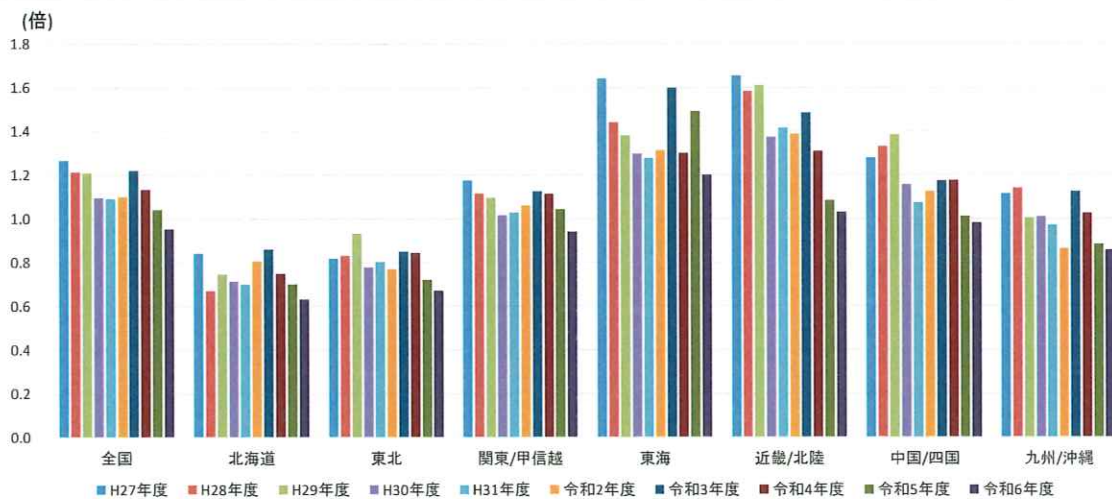


図3 地区別志願者倍率の年次推移(平成27年度～令和6年度)

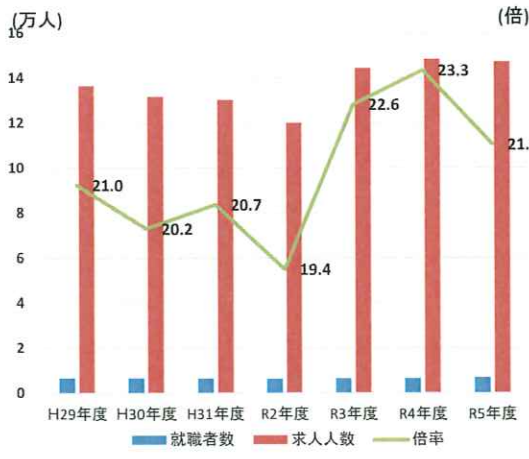


表5 地区別求人倍率

	卒業者数	就職者数	求人人数	卒業者に対する求人倍率	就職者に対する求人倍率
全国	7,513	6,738	147,132	19.6	21.8
北海道	338	320	4,750	14.1	14.8
東北	409	385	8,471	20.7	22.0
関東/甲信越	2,747	2,369	60,194	21.9	25.4
東海	1,003	962	25,257	25.2	26.3
近畿/北陸	1,472	1,293	25,729	17.5	19.9
中国/四国	696	659	11,609	16.7	17.6
九州/沖縄	848	750	11,122	13.1	14.8

図4 就職者数, 求人人数, 求人倍率の推移(平成29年度～令和5年度)

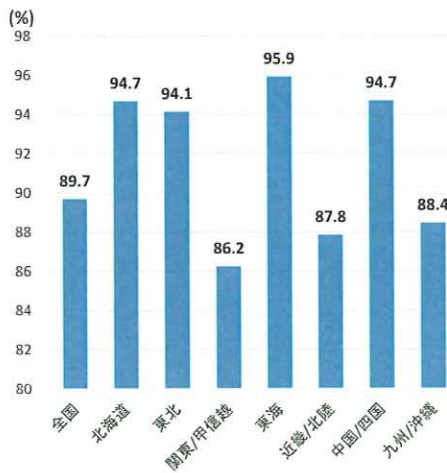


図5 地区別就職率

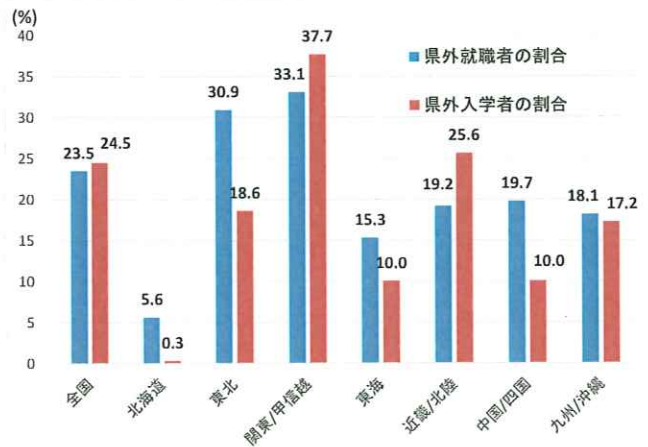


図6 養成校所在の都道府県以外へ就職した者の割合と都道府県以外から入学した者の割合

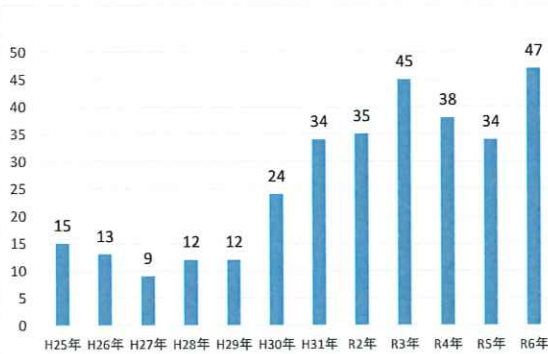


図7 留学生数の推移(平成25年度～令和6年度)

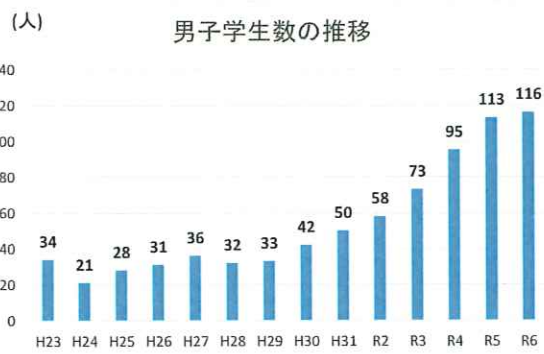


図9 男子在学生数の推移(平成23年度～令和6年度)

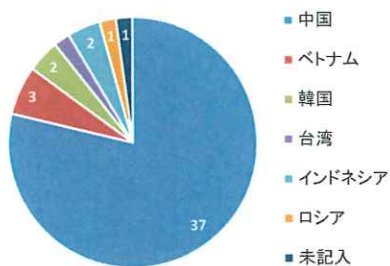


図8 留学生の出身国と人数

表6 男子学生受け入れ許可の養成校割合(%)

学校種別	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
全体	51.8	57.2	57.2	68.8	74.9	80.3
専門学校	49.2	54.9	73.1	66.7	74.0	79.9
短期大学	50	56.3	56.3	68.8	68.8	68.8
大学	90.9	91.7	91.7	92.3	92.3	92.9